



すべては
みんなの
笑顔のために

ひびき

〒384-0006
小諸市与良町6-5-5
Tel.0267-31-0251
Fax.0267-31-0140



バックナンバーはこちらから

令和7年
(2025年)

11/26 Vol.

4



《東信教育事務所》
co-create collaborate connect

行事の「当たり前」を見直す
～教科学習の延長の「体育祭」～ より



授業は準備から始まっている より



部活動を地域展開するために
～東信地区スポーツ指導者連携会議から～ より

学校改革から学ぶ

行事の「当たり前」を見直す
～教科学習の延長の「体育祭」～

・・・1

研修の窓

授業は準備から始まっている

・・・2

生涯スポーツ

部活動を地域展開するために!!

～東信地区スポーツ指導者連携会議から～

・・・3, 4

学びの改革支援課より

全国学力・学習状況調査 授業充実のカギ

・・・5

年6回発行する事務所だよりは、先生方にとって役に立つ情報をお伝えするものです。
回覧や掲示など、ぜひみなさんの目に留まるように工夫していただき、ご活用ください

行事の「当たり前」を見直す ～教科学習の延長の「体育祭」～

行事の「当たり前」を見直し、学校改革を進めるA小学校の取組について紹介します。

A小学校では『自分の考えで一步踏み出す子ども』の具現に向け、行事のあり方を考え直そうと考え、運動会の種目を見直しました。今まで当たり前と思っていた種目が、体育の指導事項と隔たりがあることに気付きました。そこで、体育授業のさらなる充実をねらい、学習で行っている題材と関連させた種目を考えました。実践が始まると種目に取り組む目的が明確になり、課題解決的な学習になっていきました。

#自分の考えて



4年 B先生

子供自身が表現を考えて創るような学習にすることで、音楽に乗って体を自由に動かすことの楽しさや喜びを味わってほしい！

子供たちが選曲、振り付けを考え、動きの工夫を創造的に考えるリズムダンスをやってみよう！

動きの構想・練習



グループごとにロックやサンバなどの曲を選び、リズムや雰囲気に合わせて動きを考えていました。「ここはどうする？」と、たくさん対話が生まれました。

試しの発表会



校庭練習前の発表会は大盛り上がりでした。体の動かす部位や場の使い方を工夫しながら動きを考え、友達と笑顔で伸び伸びと踊っていました。

#一步踏み出す

走の運動遊びとして運動感覚を広げながら、走ることの心地よさを存分に感じるような学習にしていきたい！



1年 C先生

子供たちが様々な形のコースや障害物コースを遊びこむ中で、走るための力を中心とした多様な動きを身につけ、楽しむような走の運動遊びをやってみよう！

自分たちでコース作り



自分たちでコースを作る時間がありました。友達と対話し、フラフープや台などを並べて楽しいコースを考えました。

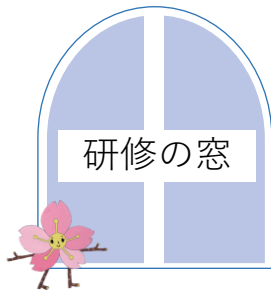
コースを遊びこむ時間



ゴムひもや段ボールなどの障害物を高さや跳び方を変えて跳び越したり、様々な形状のコースをスピードに乗って走ったりして動きを工夫し、楽しさを味わいました。

行事名も内容も「体育祭」に変えるために、研究主任や体育主任が保護者や地域の方に向けて説明会を開きました。また、活動の様子を「体育祭通信」で発信することで、家庭や地域の協力を得ることができました。「当たり前」として取り組んでいた運動会が、「自分の考えで一步踏み出す子ども」の姿の行事へと変わりました。

挑戦



授業は準備から始まっている

教材研究って何をすればいいの？
単元のねらいを達成するには？
どんな言語活動を計画すればよいかアイディアがほしい
「そもそも、どうやって単元を構想して、授業づくりをすればいいんだろう？」



(第3回授業づくり学級づくり研修会 参加者の声より)

単元構想・授業づくりのステップ

国語を例に考えてみます

1 育成を目指す資質・能力の焦点化と教科書で扱う単元の確認

教科書教材の終わりについている「学習」のページを参考にすることも有効。単元において身につけたい資質・能力を焦点化、具体化したり、「ふりかえろう」に示されている内容を基に、子供たちの学習の目標と、単元の学習ねらいや評価の観点などの整理したりすることもできる。

学習指導要領解説巻末の系統表には、小学校～中学校の9年間で育成する資質・能力（指導事項）が示されています。「学年ごとの相違点（当該学年で積み重ねていくポイント）」や「学年を通した共通点（複数学年を通した重点）」を確認することで、単元のねらいがはっきりとします。

具体で確認

学習指導要領解説

小学校

中学校



【系統表】

小学校 国語編P196～
中学校 国語編P116～

2 学習指導要領解説を基に、「子供」「教材」の視点から教材研究をする

① 決め出した指導事項が示す内容の詳細を解説で確認する。

② 「児童生徒の既習事項」「生活経験」「教材のもつ価値や可能性（教材の特徴的な表現等）」を確認する。

①と②を明確にすると、どのような「見方・考え方」を働かせた「言語活動」を位置付ければよいかが見えてきます。

3 相手、目的、場面や状況、方法を明確にした言語活動の設定（⇒単元末の児童生徒の姿のイメージをもつ）

「資質・能力（焦点化した指導事項）は、言語活動を通して育成する」ので、「だれに・何のために・どのように」ということを明確にした活動にする。

4 単元の展開と評価の場面の設定

【単元の展開の計画】

- ・単元末の児童生徒の姿をイメージし、言語活動の流れを予想し、単元の展開を計画する。
- ・焦点化した資質・能力をどの場面で育成し、どのように評価するのか計画する。
- ・「学習のゴールに向かう到達度や次への見通し」を、どのように児童生徒が自覚化できるようにするか計画する。

【評価】

評価計画を基に、授業で「記録に残す評価」を行い、学期末や学年末等の「評定」に生かす。

全国学力・学習状況調査
授業アイディア例



調査結果を踏まえて、授業の改善・充実を図る際の参考になる授業アイディア例を掲載

令和7年度 教育課程編成・
学習指導の基本（青本）



各教科の指導・改善の重点や主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善例を掲載

【授業づくり学級づくり研修会に参加した先生方の感想より】

- ・教材研究や分析などの基礎・基本が見えてきました。明日から生かしたいです。
- ・難しくて煩雑だと思っていた準備で、大事にすべきことがわかりました。具体的な授業場面とつなげて考えられそうです。
- ・一人一人の授業について一緒に考え、悩みを聞いてもらうことで、方向が見えてきました。



授業づくり学級づくり研修会は、先生方に寄り添いながら一緒に考える研修会です。
困ったときは、一人で悩まず一緒に考えましょう。先生方のご参加をお待ちしています！

部活動を地域展開するために!!

～東信地区スポーツ指導者連携会議から～

先進的に進めている千曲坂城クラブと上田市からの情報提供

千曲坂城クラブ事務局総括コーディネーター 山根 義夫 様



○理念「全ての子供たちにスポーツ・文化芸術活動を保証する」

- ・千曲市教育委員会が主体となり、自治体の責任で部活動を地域へ展開。
- ・「地域の子供は、学校を含めた地域で育てる」という共通認識。
- ・「地域の絆・コミュニティ・つながり」づくりを醸成。
- ・やってみたい子供たちが、家庭の状況に左右されることなく参加できる。
- ・個人と社会のウェルビーイングの実現。

【千曲坂城クラブの取組の特徴】

- ・持続可能な運営を目指し、資金確保のため、個人・企業・団体から賛助会員を募集。
- ・ふるさと納税やクラウドファンディングの活用。
- ・指導者は公募はせず、学校、部活顧問、関係団体からの推薦に限定し、信頼できる指導者を確保。（教職員の兼職兼業は78名、全体の32%）
- ・千曲市森将軍塚古墳館（歴史・科学専門部）や稲荷山養護学校（ボッチャ専門部）など、地域の特徴を活かした活動も展開。
- ・クラブの運営委員会に中学生や保護者が参加。当事者の意見や考えを尊重。



○子供を真ん中に置く

○地域のコミュニティ・つながりづくりを大切にする

上田市地域展開推進コーディネーター 畠山 正幸 様

○理念「中学生の『やってみたい』を地域で紡ぐ」

- ・活動機会の確保と内容の充実。（地域の人材、団体、各中学校との連携を推進）
- ・子供が多様な活動に親しむことができる環境づくり。
- ・安全で適正な指導の質を確保。（指導者研修）
- ・自立的に継続できる仕組みの構築。（適切な受益者負担）
- ・子供たちが多様なスポーツ・文化芸術活動を選択できる環境づくりを通じ、市民のスポーツ・文化芸術活動を活性化。

【上田市の取組の特徴】

- ・技術のレベルに応じて3段階の地域クラブを設置し、子供たちが選択。
- ・上田市教育委員会が運営の主体となり、事務局として地域クラブを統括。
- ・休日と平日の展開を一体的に推進。
- ・学校やスポーツ団体との懇談、HPの活用やお便りの配信による広報活動の充実。



○子供の思いを真ん中に据える

○市民が「自分事」として考えていけるようにする

意見交換会

テーマは「指導者の確保について」。情報提供を参考にし、自分たちの自治体はどんな取組ができそうか、どのような課題が出てくるかなどを話し合いました。共通の課題などが見え、連絡先を交換するなど今後につながる会になりました。



参加者の声

地域の子供は、学校を含めた地域で育てるという理念を私たちも大切にしていきたい。当事者意識をもつことが大切であると学びました。

地域指導者



地域展開は、中学校の部活動だけの課題と考えていました。もっと広く地域の課題として考えていくべきだと感じました。

中学校部活動
担当教諭



自治体によって様々な形があるため、全員が理解を深めていく必要があると学びました。先生たちとの連携が大切だと感じました。

行政部活動
担当者



多くの自治体が抱えている課題

運営団体や地域クラブ等の受け皿の不足

交通手段

財源の確保

指導者の質の担保

人材の不足

学校や地域の関心、理解不足



部活動を地域展開するために

○地域、行政、学校が協力し、推進体制を整える

⇒子供たちのニーズに応じた活動の展開。

受け皿や人材、交通手段の確保

○公的な補助と受益者負担のバランスをとりつつ、企業とも連携を図る

⇒持続可能なクラブ作り。子供の負担を減らす

○自治体ごとに確かな理念をもち、地域、行政、学校に浸透させる

⇒地域コミュニティづくり。指導者の質の担保

○それぞれが地域展開を「自分事」として捉え、自分の立場でできることを模索していく

⇒地域展開に関する理解の促進

地域の子供たちのために、地域のスポーツ・文化芸術活動の環境を整える

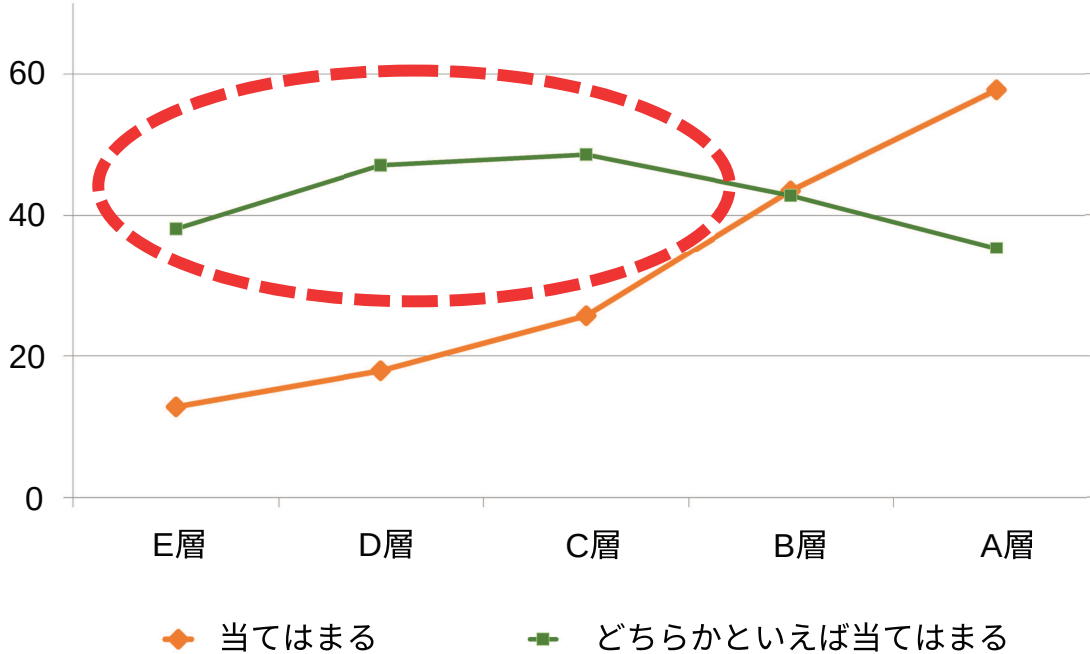
大切なのは「子供ファーストの考え方」と「地域、行政、学校の連携」です。





長野県の子どもの「よさ」や「可能性」

「数学の授業の内容はよくわかりますか」の回答状況



グラフの見方

中学校数学を受けた生徒を、正答数の多い順に並べて、上位から20%ずつ5つのグループに分けたものがA～E層です。グラフは「数学の授業の内容はよくわかりますか」という質問に対する肯定的回答の割合を示しています。

例えば、正答数の多いA層は「授業の内容はよくわかりますか」の質問に対して、「当てはまる」と回答している生徒が約60%いることが読み取れます。また、正答数が多くなるにつれ、「当てはまる」の回答が増えています。

Q 〇の部分に注目！どんなことが考えられるでしょう？

正答数の多くない、C～E層に「数学の授業の内容はよくわかりますか」の質問に、「どちらかといえば当てはまる」の生徒が、40～50%います。どうしてでしょう？

〇の部分の子供の「よさ」や「可能性」は何でしょう？

- ・「どちらかといえば当てはまる」と回答していることから、授業に一生懸命取り組んでいる？
- ・「どちらかといえば当てはまる」と回答していることから、基本的な計算はできている？

でも、もしかしたら、授業のねらいが曖昧になっているから、その子なりの何となくこんなことができたという思いが、「どちらかといえば当てはまる」につながったかもしれない。

「よさ」や「可能性」を伸ばしましょう！

一生懸命取り組んでいることを認めることは大事。基礎基本の定着も大事。それ以外にも、

- ・教師も、子どもも授業のねらいが明確になるように、板書に位置づけよう。
- ・振り返りの場面で、学びを子ども自身で自覚できるようにしよう。振り返りが単なる感想で終わらないように、「何がわかったか」「何ができるようになったか」「どうしてできるようになったか」を視点を、振り返りができるようにしよう。

お問い合わせ

長野県教育委員会事務局

学びの改革支援課 ☎ 026-235-7434